

第4学年社会科学学習指導案

指導者 柳原政輝

I 単元名 健康なくらしとまちづくり ―ごみはどこへ―

II 単元の指導構想

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の目標（1）と内容（3）に準拠して設定したものである。

○目標

- （1）地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。

○内容

- （3）地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

- ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり
イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。

2 単元について

〈教材について〉	〈単元の目標〉	〈目指す子どもの姿〉
<p>本単元の学習は、廃棄物の処理と自分たちの生活や産業との関わりや、ごみの処理の対策や事業が計画的・協力的に進められていることを、見学や調査を通して調べる。そして、ごみ処理に関わる対策や事業は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考えることを主なねらいとしている。</p> <p>ごみが増え続ける中で、ごみを減らすために地域の人や処理事業に従事する人々が、どのような工夫や努力をしているのかを調べることにより、児童一人一人がごみの問題をより身近な問題として捉え、ごみを減らすために自分たちにできることについて考え、物を大切にできる態度が養われるのではないかと考える。</p> <p>「ごみ」という目に見える具体物を取り上げる本教材は、子どもにとって多いに思考を刺激するものとする。本教材は、生活経験や見方・考え方の違う子どもたちが、他者との対話を通してごみ問題を多面的に捉えたり、自己との対話が促され自然に自分に問いかかけたりしながら、社会とのよりよいかかわり方を考える上で、非常に有効にはたらくと考える。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none">ごみ処理の様子に関心をもち、地域の人々のごみ処理のための工夫や努力について進んで追究しようとする。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none">ごみ処理の諸活動と健康な生活の維持・向上との関連を考えたり、地域社会の一員としてよりよい生活環境について考え、表現したりすることができる。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none">ごみ処理の様子を調査したり、見学したりするとともに、調べた過程や結果をまとめることができる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none">ごみ処理にかかわる事業や対策は、計画的に進められ、自分たちの健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解することができる。	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none">ごみの処理に関わる対策や事業に関心をもち、意欲的に調べようとする子ども。地域社会の一員として、ごみの減量や資源の再利用などの取組に協力しようとする子ども。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none">ごみの処理に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現することができる子ども。自分たちの健康な生活を支えるごみの処理の対策や事業について自分なりの考えをもち、ごみとのかかわり方を言語などで適切に表現できる子ども。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none">見学や聞き取り調査を行ったり、地図や統計などの資料を活用したりして、ごみ処理に関わる対策や事業について必要な情報を集め、読み取ることができる子ども。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none">ごみ処理の対策と事業は、自分たちの生活の維持と向上に役立っていることがわかる子ども。

〈復興教育（3つの教育的価値）との関連〉

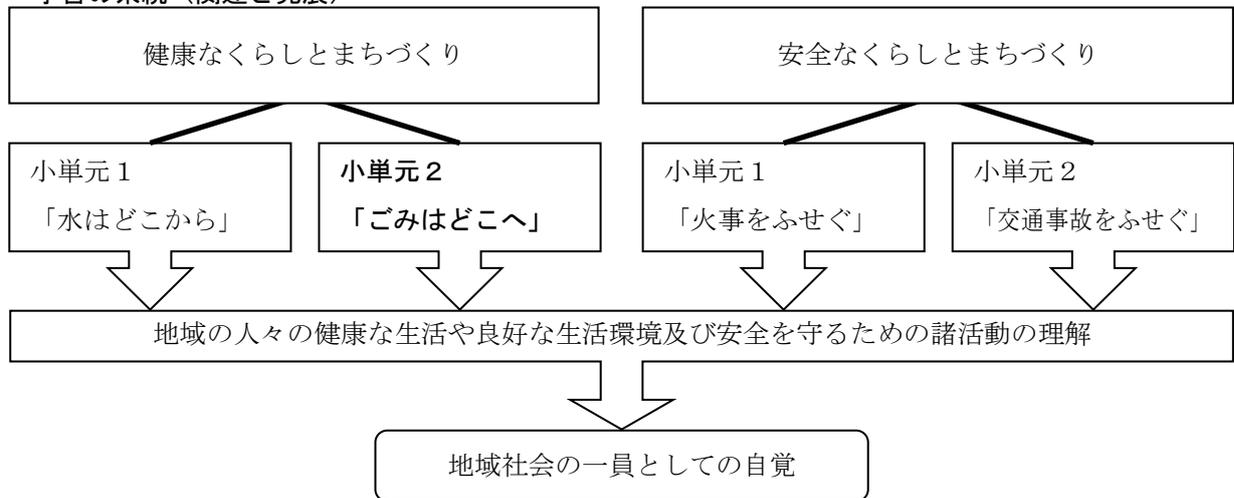
1 生命や心について【いきる】 「⑦【体の健康】」との関わり

廃棄物の処理に関わる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることをとらえ、健康な生活を維持していくためにできることを主体的に考える。

2 人や地域について【かかわる】 「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】」との関わり

廃棄物の処理について、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るために関係機関と地域の人々が互いに協力していることや、関係機関に従事している人々や地域の人々が様々な工夫や努力をしていること、それらの諸活動は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。それらをもとに、増え続ける廃棄物の処理の仕方や資源としての再利用の在り方などについて意見や意思を交流し合う。そのとき、従事している人々の思いや願いを共有し、一人一人が廃棄物の処理にかかわる社会的事象を多面的に捉えたり多角的に考えたりすることで自分の意思を明確にして、それを対話を通して友だちとつき合わせることで、共通点や相違点に気づき、対立・葛藤をしながら互いの考えや支え合う大切さを感じる。

3 学習の系統（関連と発展）



4 指導計画及び評価計画

(1) 評価規準

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	① ごみの処理に関わる対策や事業に関心をもち、意欲的に調べている。 ② 地域社会の一員として、ごみの減量や資源の再利用などに取り組もうとしている。	① ごみの処理に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画等を考え表現している。 ② ごみの処理に関わる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。	① 施設・設備などを観点に基づいて見学・聞き取り調査を行ったり、地図や統計などの資料を活用したりして、ごみの処理に関わる対策や事業について必要な情報を集め、読み取っている。	① ごみの処理に関わる対策や事業は計画的・協力的に進められていることを理解している。 ② ごみの処理に関わる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 ③ ごみの処理と自分たちの生活とのかかわりを理解している。

〈資料1〉学習内容の構造図

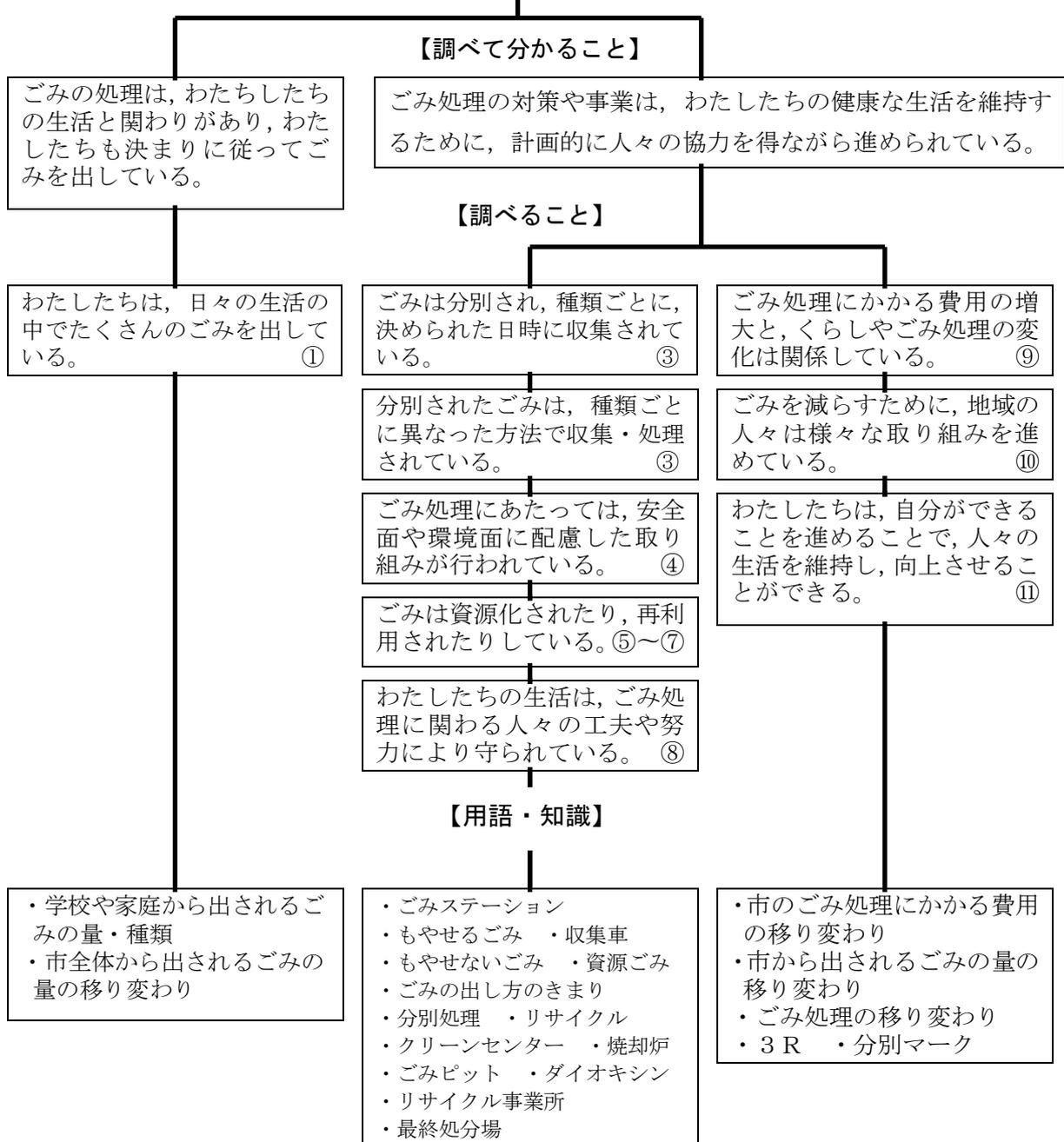
【健康なくらしとまちづくり -ごみはどこへ-】

〔学習指導要領の「内容」との関連〕

- 内容 (3)
 - ア 飲料水, 電気, ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり
 - イ これらの対策や事業は計画的, 協力的に進められていること。

【学習全体を通して分かること】 (小単元)

地域の人々の健康な生活を守るために, ごみの処理に関わる対策や事業が計画的・協力的に行われているが, ごみは無くならない。自分たちが協力して, ごみを減らす努力をすることが必要である。



(3) 指導計画

進	時	おもな学習活動	価値判断・意思決定のかかわり	指導上の留意点・評価方法(※)・【評価規準】
問 の 把 握	1	① 学校から出されるごみの種類について考え話し合う。 ② 学校のごみ置き場を観察し、ごみの種類や量などについて調べる。 ③ 家から出るごみの種類や量について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家から出るごみのしゅるいやりを調べよう。</div> ④ 家から出るごみを調べる計画を立てる。	○ 「ごみの処理の仕方や分別のきまりについて関心をもたせる」ために、「生活経験」を十分に引き出すとともに、「学校から出されるごみの種類や量の多さ」をとらえさせる。	・教室のごみ箱を観察ことにより、ごみの種類に関心をもつことができるようにする。 ・量が確かめられるごみは、袋の数や本数等で表現させる。 ※ 活動の様子や発言の様子から、「学校のごみ調べをきっかけに、家から出るごみについて関心をもとうとしているか」を評価する。 【関-①】
	1	① ごみ調べの結果をもとに、多く出されたごみの種類や、収集に出したごみの袋の数などについて話し合う。 ② 市全体で出されるごみの量を示すグラフをもとに分かったこと、疑問に思ったことなどについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市から出るたくさんのごみは、どのようにしてしょりされているのだろう。</div> ③ ごみ処理の流れについて話し合い、調べる内容を明らかにする。	○ 「たくさん種類や量のごみがどのようにして処理されているのか」について問題意識をもたせ、その流れや仕事関係する機関や携わる人などについて学習していく計画を立てる。そのため、「家庭からのごみの量や種類、市全体のごみの量が増えていること」をとらえさせる。	・家庭で収集に出したごみ袋の数の合計を示すことで、多くのごみが出されていることに気づくことができるようにする。 ・グラフから、市全体で出されるごみの多さに気づかせ、学習問題を設定する。 ・予想を黒板にまとめていき、調べる内容をもらえることができるようにする。 ※ 発言の内容やノートの記述内容から、「ごみ処理の流れについて予想や学習計画を立てることができたか」を評価する。 【思-①】
問 の 追 究	1	① 各家庭のごみが集まるごみステーションの様子について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ごみは、ごみステーションにどのように集められているのだろう。</div> ② 学校の近くのごみステーションへ行き、ごみの種類や量、ごみの出し方のルールなどについて調べる。 ③ ごみを収集している様子を観察し、収集車や働いている人の様子について調べる。	○ 「ごみのゆくえ」に関心をもたせるとともに、「ごみの出し方・集め方にきまりがあるのはなぜか」について考えさせるために、「ごみステーションの様子や表示、収集車や働いている人の様子、地域の人の取り組み」をとらえさせる。	・ごみの出し方のきまりに着目させ、きまりを守ることの大切さに気づくことができるようにする。 ・事前にごみ収集車がステーションに訪る時間を調べておく。 ・働いている人から、集められたごみが運ばれる所を伝えてもらい次時への意欲を高める。 ※ ノートの記述内容から、「ごみの出し方のきまりについて理解しているか」を評価する。 【知-①】
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クリーンセンターとリサイクル事業所では、どのようにしてごみをしょりしているのだろう。</div> ① クリーンセンターとリサイクル事業所のごみ処理の様子について予想する。 ② 予想を出し合い、調べる観点を明らかにする。 ・施設の様子 ・ごみ処理の仕方 ・働く人の様子 ③ 見学の約束や持ち物などについて確かめる。	○ もやせるごみ、もやせないごみ、資源ごみの処理の仕方について予想させる中で、「環境や安全に配慮していることや多くの人が携わっていること」を感じさせるために、「施設や設備、大まかなごみ処理の手順」をとらえさせる。	・クリーンセンターは燃やせるごみ、リサイクル事業所は資源ごみと燃やせないごみを処理していることを伝える。 ・予想をクリーンセンターとリサイクル事業所に分けて板書し、それぞれの場所で調べる観点をとらえさせるようにする。 ※ ノートの記述内容から、「ごみ処理の仕方を調べる見通しをもつことができたか」を評価する。 【思-①】
	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クリーンセンターとリサイクル事業所のごみのしょりの様子について調べよう。</div> ① 調べる観点にしたがって、ごみ処理の作業を具体的に調べる。	○ 「働く人たちの思いや、努力や工夫の理由」について考えさせるために、「働く人のごみ処理への携わり方や安全・環境面に配慮した取り組み」などをとらえさせる。	・機械で行っている作業と人が行っている作業に気づかせるようにする。 ・安全面や環境面に配慮した取り組みに気づかせる。 ※ 見学ノートの記述内容から、「ごみ処理の仕方について、観点に沿って必要な情報を集めることができたか」を評価する。 【技-①】
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クリーンセンターとリサイクル事業所のごみしょりのしかたをまとめよう。</div> ① クリーンセンターで調べたことを出し合い、燃やせるごみの処理の仕方についてまとめる。 ② リサイクル事業所で調べたことを出し合い、種類ごとのごみの処理の仕方についてまとめる。 ③ ごみ処理の問題点、働く人たちの努力や工夫、願いについてまとめる。	○ 「ごみ処理における問題点が何に起因しているのか」を考えさせるために、「具体的なごみ処理の問題点や働く人たちの努力や工夫、願い」についてとらえさせる。	・ごみを燃やした熱を利用し、環境に配慮していることをとらえさせる。 ・燃やせるごみの灰や、燃やせないごみを埋める最終処分場があることを確かめさせる。 ・24時間交代で働き、ごみは1年中燃やし続けられていることをとらえさせる。 ※ 発言内容や見学ノートの記述内容から、「ごみ処理の仕方や問題点、働く人の努力や工夫、願いについてとらえているか」を評価する。 【知-②】
ま と め	1	① グラフから、市のごみ処理にかかる費用の移り変わりについて調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ごみしょりにかかるひ用がふえ続けているのは、なぜだろう。</div> ② 費用が増え続けている理由を話し合う。 ③ 理由を調べ、人口の増加、くらしの移り変わり、ごみ処理の仕方の変化との関係をとらえる。	○ 「ごみ処理にかかる費用の増大の理由」を考えさせるために、「人口が増加していること、くらしの移り変わりやごみ処理の仕方の変化」を具体的にとらえさせる。	・祖父母が子どもの頃のくらしと、今のくらしを比べさせる。 ・くらしの変化が費用の増大につながっていることに対する考えを発表させる。 ※ 発言内容やノートの記述内容から、「ごみ処理にかかる費用の増大と、くらしやごみ処理の変化との関係をとらえているか」を評価する。 【知-③】
	1	① 身の回りのごみを減らすための取り組みについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ごみを減らすために、どのような取り組みが行われているのだろう。</div> ② 資料をもとに、市や地域、商店、工場などの取り組みを調べる。 ③ 調べたことをもとに、ごみを減らす取り組みのよさについて話し合う。	○ 「ごみを減らすための様々な取り組みのよさ」について考えさせるために、「実際に行われている取り組みの内容とその主体」を具体的にとらえさせる。	・スーパーマーケットのごみを減らす取り組みを想起させる。 ・ごみを減らす取り組みのよさについて考えさせ、自分の生活を振り返るきっかけとする。 ※ 発言内容やノートの記述内容から、「ごみの減量や資源の再利用などに取り組もうとしているか」を評価する。 【関-②】 ※ 発言内容やノートの記述内容から、「様々なごみを減らす取り組みについて調べ、そのよさについて考えているか」を評価する。 【思-②】

1 本時	<p>① ごみ処理にかかわる取り組みに対する考えを伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ごみをへらすために、自分たちはどのようなことをしていけばよいのだろう。 </div> <p>② 埋め立て地の不足が予想されることを知り、ごみが減らないことに対する問題意識をもつ。</p> <p>③ ごみを減らすため自分にできることを考える。</p> <p>④ 理由を明らかにしながら、ごみを減らすための取り組みについて発表し合う。</p> <p>⑤ 話し合いをもとに、自分なりのごみを減らすための取り組みを決定する。</p>	<p>○ 「ごみを減らしていく取り組みの必要性」をより切実感をもって考えさせるために、「ごみ処理に関わる新たな事実や外国の取り組み」等をとらえさせる。</p> <p>・ 掲示資料やノートなどをもとに、ごみ処理にかかわる取り組みと、自分たちの生活に果たす役割について確認させる。</p> <p>・ 新たな事実を提示することで、問題意識を高めさせる。</p> <p>・ 出された考えを、整理して板書する。</p> <p>※ 発言内容やノートの記述内容から、「ごみ処理にかかわる対策や事業をもとに、ごみを減らす方法を考え、表現することができたか」を評価する。【思-②】</p>
---------	---	---

Ⅲ 本時の授業構想

1 本時の指導

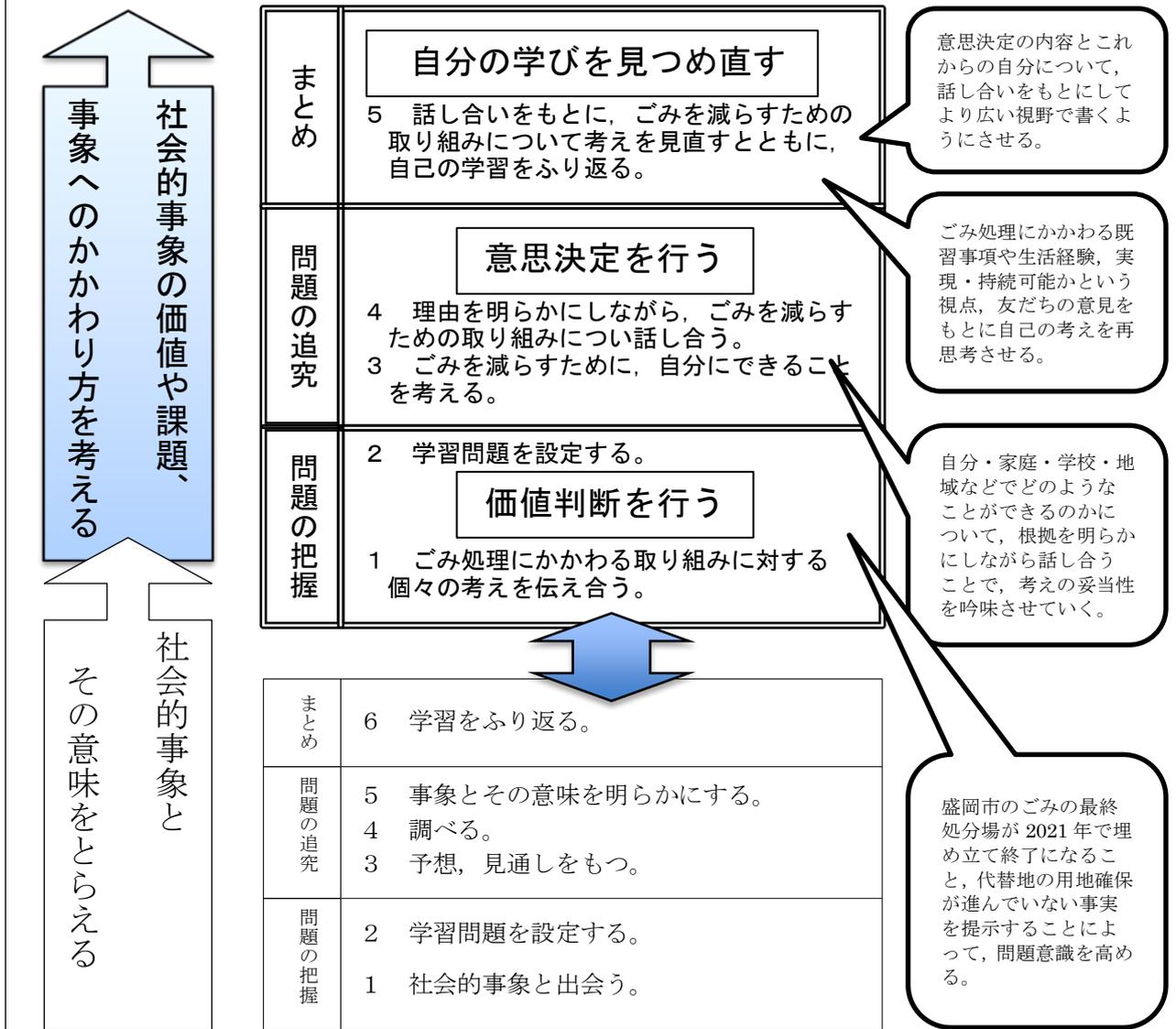
◆ 子ども像

社会とのよりよいかかわり方を考える子ども

とらえた社会的事象とその意味をもとに、自分たちの生活や社会の向上・発展を目指して、事象に対する態度や行動を明らかにしていく子ども

◆ 授業像

単元の後半において、とらえた社会的事象がもつ価値や課題、事象へのかかわり方についての話し合いを通して、事象に対してとるべき態度や行動を明らかにしていく授業



2 目標

ごみを減らすために、自分たちにできることを考えることができる。

3 評価規準

評価の観点	評価方法と評価規準	期待する記述例	努力を要する児童への手だて
思考・判断・表現	・ノートの記述内容から、「ごみ処理にかかわる対策や事業をもとに、ごみを減らす方法を考え、表現することができたか」を評価する。【思-②】	・物を買うときには、必要な物だけにしたり、詰め替えができる物を買ったりしたい。ごみ処理の手間や費用がかからなくなるから。	・板書のキーワードをもとにふり返らせる。 ・掲示資料から前時まで学習を想起させ、方法のよさに目を向けさせる。

4 展開

段階	学習活動と学習内容	分	◆研究に関わる具体的な手だて ※評価	資料
問題の把握	1 ごみ処理の現状に対する自分の考えを発表する。 ・ごみを減らしていくために、自分たちも何かをしていきたい。 ・ごみ処理にかかわる人たちのおかげで清潔な暮らしができていますので感しゃしたい。	10	・掲示資料やノートを用いて、ごみの量や処理費用が増えていること、それを解決するための取り組みについて確認する。 ◆「ごみの問題やそれを解決するための取り組みを知って、どんなことを考えましたか。」と発問し、市や地域などの取り組みの価値を再認識させたり、ごみに関わる問題意識を高めさせたりする。	・掲示資料 ・ノート
	2 学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ごみを減らすために、自分たちはどのようなことをしていけばよいのだろう。</div>		◆盛岡市の最終処分場が2021年にごみでいっぱいになり埋立終了となること、用地確保の問題があり代替地は全く決まっていない事実を資料で伝え、ごみを減らすために自分たちが何かをしなければいけないという切実感をもたせる。	・写真「最終処分場」 ・映像「リサイクル事業所の人の話」
問題の追究	3 ごみを減らすために、自分や自分たちにできることを考える。	10	・取り組む方法と、その取り組みを考えた理由をノートに短くまとめさせる。	・ノート
	4 理由を明らかにしながら、ごみを減らすための取り組みについて話し合う。 【自分】 ・持ち物に名前を必ず書くようにしたい。落とし物が減って、ごみを減らすことにつながると思うから。 【家庭】 ・買い物にはエコバッグを持っていくようにしたい。みんながやれば大きくごみを減らすことができると思うから。 【学校】 ・ポスターを作り、全校にごみの今の状態を知らせたい。みんなの意識が変わるから。 【地域】 ・子ども会の資源回収の回数を増やしたい。リサイクルが進み、ごみを減らせるから。	20	◆取り組む方法⇒理由の順に発表させる。 ◆根拠の曖昧な部分を問い直したり、見方・考え方が広がるような内容を取り上げ、全体で話し合ったりする。 ◆よりよい意思決定の一助となるように、出された取り組み内容を自分、家、学校、地域で類型化して板書する。	
まとめ	5 本時の学習をふり返り、自分の考えをまとめる。	5	・明らかになったごみを減らす取り組み、友達の考えのよさ、自分の考えの変化についてふり返らせる。 ※ノートの記述内容から、「ごみ処理にかかわる対策や事業をもとに、ごみを減らす方法を考え、表現することができたか」を評価する。【思-②】	・ノート